

通常例会

司会

点鐘 12:30

ロータリーソング「我らの生業」 斉唱

ホテル・ブエナビスタ

福田雅春会場監督委員

村山智計会長



村山会長挨拶

本日はまず最初に、深澤久子様のご逝去に際し、心より哀悼の意を表します。深澤様はいつも穏やかで温かな眼差しを向けられ、そ

のお人柄は多くの方々に安心と優しさを与えてくれました。奉仕の精神にも溢れ、静かに周囲を支える姿勢は、私たちロータリアンにとっても学ぶべきものが多かったと感じております。深澤様が遺してくださった思いやりと行動の大切さを胸に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。【黙祷】

続いて、11月16日に行われました地区大会についてご報告いたします。県内外から多くのロータリアンが集まり、国際ロータリーの方向性や地区としての重点目標について理解を深める、非常に内容の濃い大会となりました。松本東クラブから参加いただいた皆さまにも、厚く御礼申し上げます。長時間にわたるプログラムでしたが、それぞれに有意義な学びがあったことと思います。中でも、防災をテーマにした寸劇はとても印象的でした。ユーモアを交えながらも、災害への備えの大切さを分かりやすく伝えており、思いのほか心に残る内容でした。楽しさと教育性がうまく組み合わせられた試みであり、今後の地域活動にも活かせる気づきが多くあったと感じています。

最後に、来週開催されます留学生によるスピーチコンテストのご案内です。各国からの留学生が、自らの経験や文化、日本で感じたことを日本語で伝えてくれる場であり、毎年多くの学びと感動をいただく行事で

す。本日の例会では、この後初山委員長より詳しい説明がごさいます。役割分担についても、皆さまにはぜひご自身の担当をしっかりとご理解いただき、クラブ一丸となって大会の成功に向けて取り組んでまいりたいと思います。留学生の皆さんが安心して力を発揮できるよう、温かい応援とご協力をお願い申し上げます。

幹事報告

吉池幹事

1. 次週 11月28日は、留学生による日本語スピーチコンテストです。各担当の時間に合わせて、進行が順調に出来るようご協力をお願いします。
2. 本日例会終了後、指名委員会を開催します。この例会場で引き続き行いますので、指名委員の皆様はご出席をお願いします。
3. 例会変更については引き続きどのクラブでもビジター受付は実施されていません。ご了承下さい。

出席委員会報告

齊川副委員長

本 日 11 月 21 日 欠席 10 名 出席率約 66.6%

ニコニコBOX報告

花村委員

- ・スピコンの説明をさせていただきます。来週はよろしく
お願いします。 靱山君
 - ・卓話を行います。大屋根リングの全面保存の有無に
ついて考えてみようと思います。 飯嶋君
- 〔何となく〕 小笠原君 〔前回欠席〕 花村君
〔写真掲載〕 村山君、吉池君、眞峯君、北澤君、小
畑君、斉川君、舘島君、土屋君

☆☆☆ 本日のプログラム ☆☆☆

司会

佐々木プログラム委員

【留学生による日本語スピーチコンテストについて】

粵山國際奉仕委員長

留学生によるスピーチコンテストですが実施が来週となりましたので、概要を説明させていただきます。

今年の学生の応募総数は 42 となりました。先

日選考委員会を開催し、当日発表していただく方 10 名を選定致しました。応募していただいた内容はどれも素晴らしく甲乙つけがたいものでしたが、時間の関係もありまして当初予定の 10 名に絞らせていただきました。初めてスピーチコンテストの担当になったものですから、審査員を引き受けて



もらえるのか、応募はある程度数が集まるのか不安がありましたが、委員の皆様・事務局濱さんに助けられ実施できるような感じにはなりました。

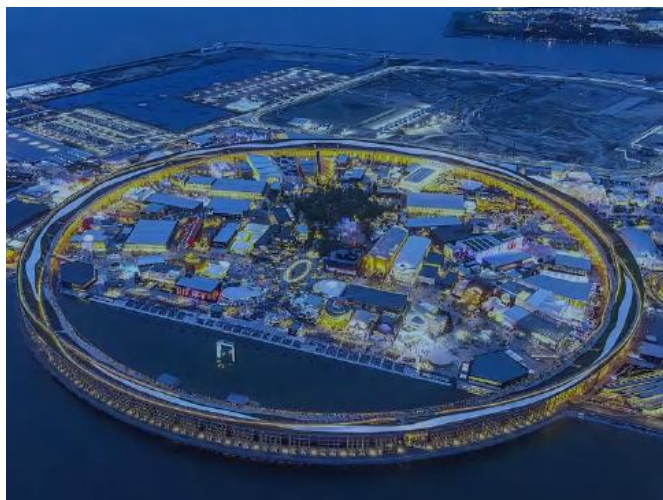
役割分担・進行はお手元の資料と説明をさせて頂いた通りとなります。不測の事態は生じるものと思われませんが、経験豊富な皆様の対応力にお任せ致します。それでは来週、よろしくお願い致します。



【会員卓話】飯島司会員

今日は、大阪・関西万博「大屋根リング」について、考えてみたいと思います。先月閉幕した大阪・関西万博、万博参加国や大学関係者、来場者などから、大屋根リングの全面保存を求める強い声が上がっています。

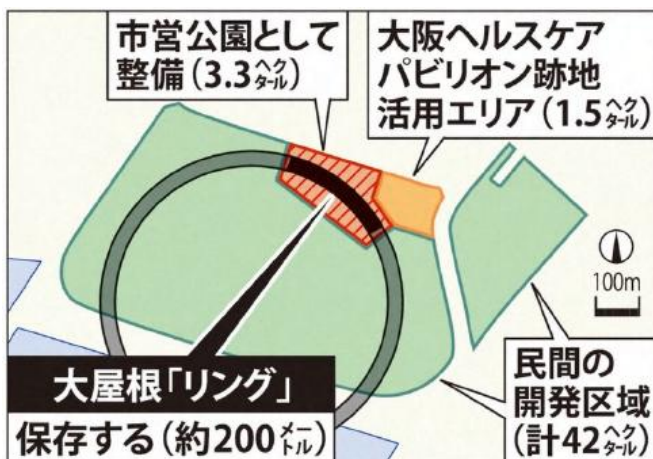
私も5月に訪れ、その巨大な規模に圧倒されました。大屋根リングは、高さ約12～20メートル、全長2キロメートルに及ぶ巨大な木造の円環構造物です。日本の伝統的な「貫(ぬき)」を応用した構造で、屋上は海やパビリオン群を一望できる歩行空間となっていました。



ここで、1970年の万博で保存された太陽の塔と比較すると、太陽の塔は、建築面積約1,000㎡の鉄骨・鉄筋コンクリート構造で、保存が比較的容易でした。一方、大屋根リングは約60,000㎡と60倍の規模で、木造という脆弱性を抱えています。設計者の藤本壮介氏は「非中心」「離散」という思想でこのリングを設計しました。単なる通路ではなく、日本の伝統的な「縁側」のように、人々が憩い、出会い、風景を共有する空間。特定の中心を持たず、人々の動きとともに空間を形づくる、多様性そのものを体現した建築です。

しかし、保存には大きな課題があります。法的課題：仮設建築物から恒久構造物への変更には、建築基準法上の再申請が必要です。技術的課題：海辺環境での木材劣化、集成材の接着層の経年劣

化、金属接合部の腐食が進行しています。大規模で継続的な補強・維持費が不可欠です。



大阪府の吉村知事は、全長2キロのうち北東側約200メートルだけを残す方針を示しています。10年間で約55億円という市民負担を伴う案です。設計者の藤本氏は「中途半端に残すのが一番よくない」と言っています。「非中心」の理念を欠いた断片は、単なる残骸になりかねません。

ここで私が注目するのは、大阪工業大学客員教授の吉村英祐氏が提案する「半残し」案です。この案は、200mの実物を残し、残り1.8kmは柱の根本(42cm)を立方体のオブジェとして保存するものです。この発想は、2001年9月11日のテロで崩壊したツインタワー跡地を整備した「ナショナル・セプテンバー11メモリアル」に通じます。建物は再建せず、平面の形を巨大な滝として残し、毎年9月11日には2本の光の柱を夜空に灯す―“形のない記憶の建築”です。吉村教授は、1.8kmの痕跡に沿って発光ベンチを設置し、夜には美しい「光のリング」を描き出すことで、かつての風景を幻想的に再現し、リング全体の記憶を継承できると述べています。ただし、この案は跡地の自由な開発を制限するという問題があり、実現は難しいと考えられています。吉村教授は「まだ時間がある。少しでも『全残し』に近い案の実現に向けて、英知が結集されることを強く期待している」と結んでいます。

【点鐘13:30】

村山会長

《指名委員会》13:40～

